

ストリントベルク II

彼はごんで白い道から  
一つの小石をひろつた  
しばらく考へぶかげに歩いて行つた  
彼の背中を冬の日が追つた

彼はまたごんで白い道から  
一つの小石をひろつた  
両手に一つづつの石を持つて  
彼は歩みをつづけた

すれちがふ人とてもみない  
葉の落ちつくした木立を縫つて  
かすかな風と冬の日が追つた

彼の両手の中の小石は彼の両手の中で  
人の心臓のやうに脈うつてゐた  
彼は石にほとぼしる血を感じた